

2023年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2023年3月13日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等		曜・時限
小田匡保	A	歴史地理・文化地理の論文講読と地域調査	前期は、発表担当を決めて、歴史地理・文化地理を中心に人文地理学の論文講読を行なう。後期は、10月に3泊4日で地域調査を行なう。場所は、山梨県富士吉田市を予定している。テーマは、農業、織物業、商業、交通、観光、食、町並みなど、グループまたは個人で設定する。最終的には調査報告書をまとめる。		水・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
西山弘泰	B	地方都市の人口問題	福井県福井市	9月上旬 (4泊5日)	本調査では、地方都市における中心市街地の空洞化と郊外の市街地拡大の把握を通して、都市構造を解明するとともに、快適な都市生活のあり方を検討する。調査は、①各種文献・資料、統計などにより福井市やその周辺地域の現状を把握、②調査計画を立案、③現地調査の実施（9月上旬）、④調査結果のとりまとめ・分析、⑤報告書の作成、の順に進めていく。夏休み中も、調査の準備やとりまとめのために頻りに大学に来てもらうので、アルバイトや部活動の時間を調整すること（ゼミ活動を優先してもらう）。また、ゼミの時間以外にサブゼミの時間を設けるので、そちらにも出席するように。	水・3
瀬戸寿一	C	情報化とまちづくり	富山県富山市	10月上旬～中旬 (3泊4日)	スマートシティ政策に取り組んでいる富山県富山市を対象に、社会生活や産業活動の変化、地域構造や機能の変化、土地利用や景観変化、行政・市民における課題などに留意しながら、グループごとに調査テーマを設定する。前期は、対象地域の基礎学習や、文献購読を行った後、調査計画を立案し事前課題に取り組む。調査後は速やかに各種データや統計資料を用いてGIS分析やデジタル地図化を行い、グループごとに12月までに報告書の作成と発表会を行う。	水・5
須山 聡	D	奄美大島の地域性	奄美大島宇検村	6/30～7/6または 7/7～13	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は奄美大島宇検村または奄美市住用町の集落を対象に「集落点検」を実施する。奄美の集落はいずれも高齢化と人口減少に直面しているが、集落点検は、集落の維持・存続のための有効な具体案を住民との協働のワークショップによって考える、地理学の実践の場である。これまで、提案した内容のいくつかは実行され、集落に新たな活気をもたらしている。	水・3
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村	6月に4泊5日を 予定	主なテーマは、農山村の暮らしの特徴と変容、農産物のブランド化、都市・農村交流など。事前準備や文献購読から報告書作成まで取り組む。村落地理学を履修の人は、今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3
土谷敏治	F	地方都市における公共交通の課題と展望	熊本市と周辺地域 (予定)	10月中旬	地方都市の交通、人口、産業、土地利用等に関する文献の講読を通じて、調査計画の立て方、調査・研究の方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、実際に調査・研究計画の立案し、資料の収集、現地調査、調査結果の分析、調査報告作成を行う。現地調査の対象地域は、路面電車の活用推進、市営バスの民間委譲が行われた熊本市と周辺市域を予定している。	火・5

地域調査入門(2, 3, 4年選択)両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
平井幸弘	A	ジオパークにおける自然地理学の視点	福島県磐梯山地域	11月初・中旬 に 2泊3日	日本ジオパーク認定地の一つである福島県の磐梯山地域において、その特徴的な火山地形や過去の災害、現在の防災、さらには裏磐梯の湖沼群など地域資源を活かしたツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、地形調査、植生調査、景観調査などを実施する。	後期 火・4
西山弘泰	B	東京近郊都市の地誌	山梨県甲府市とその周辺	10月および12月 (1泊2日×2回)	東京から西に約100kmに位置する山梨県甲府市と周辺地域を事例に調査を行う。文献や統計分析、現地調査から当該地域の自然環境や歴史・文化、産業、人口などの特徴を見出す技法を身に着ける。1回目の巡検では、大まかに甲府市とその周辺の現況を把握し、2回目の巡検では、班ごとにテーマを設けて調査を行ってもらう。	後期 火・4
須山 聡	C	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村佐念集落	8月11日(金)～ 14日(月)	奄美大島宇検村佐念集落で旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。佐念は人口30人あまりの小さな集落であり、豊年祭の準備・実行の人手が足りない。単に祭りを見物するのではなく、豊年祭の担い手としての役割が期待される。住民のみならずとも豊年祭に関わることで、集落の維持・存続に関する知見を得る。	後期 金・4
小野映介	D	沖縄県久米島の人と自然	沖縄県島尻郡久米島	6月下旬 (2泊3日)	久米島は沖縄本島の西約100kmに位置する火山島で、サンゴ礁の発達する美しい島である。島の自然環境と人間活動との関係について、フィールドワークを通じて学ぶ。地形・地質、動植物、気候以外にも、離島の農業・漁業、観光業、食・文化、城（グスク）などの歴史に興味を持つ学生に受講して欲しい。交通費・宿泊費・食事代を合わせると5万円ほどかかる。	前期 金・4
鈴木重雄	E	中部山岳の自然環境	長野県松本市上高地・乗鞍高原	6月上旬の2泊3日	槍ヶ岳、穂高岳から流れる梓川とその支流による侵食と堆積によって作られた上高地の地形と植生、火山活動によって形成された地形上で行われた放牧によって形成された二次林の広がる乗鞍高原を訪れ、観察と調査を行う。ツーリズムに起因する諸問題や高冷地での農村形成などの人文現象に関心を持つ学生も受講して欲しい。	前期 金・4

地域環境演習(3年選択必修)

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等		曜・時限
平井幸弘	B	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	前期は、日本の湖沼の現在の自然地理学的課題について、文献を中心にレビューする。後期は、関東地方のそれぞれ特色のある湖沼(例えば霞ヶ浦、富士五湖、諏訪湖など)の中から2カ所ほどに出かけ、それぞれ日帰りまたは1泊2日程度の簡単なフィールドワークを実施する。		水・4

地域環境調査法(3年選択必修)

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の自然と環境	鹿児島県屋久島町	11月上旬を予定	屋久島の気候についてテーマを決め、気候データの解析を中心に進めます。後期に、屋久島の自然と環境について調べたうえで、現地調査を行います。最後に、全部の調査結果を報告書としてまとめます。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山北麓の自然環境・観光・防災	群馬県長野原町・嬬恋村周辺	7月下旬～9月中旬 の3泊4日	浅間山北麓の自然環境(地形・植生・水文・風穴など)を中心に、それを活かしたツーリズムや自然災害への対応について調査を行う。班別に調査テーマ決め、地形・植生調査は地元で専門家に協力を仰ぎながら実施する。また、観光や防災に関する調査では、観光客や地元住民へのアンケート調査、関係機関へ出向き聞き取り調査を行う。	水・2
鈴木重雄	C	福島県只見町の自然環境と人の関わり	福島県只見町	10月上旬～中旬の 3泊4日	福島県最西端の豪雪地域にある只見町で、多量の積雪や雪崩によって形成される植生やブナの二次林と原生林、それらの前提となる地形・気候・水文環境、山菜生産などの生態系の利用について調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前には文献の講読を行い、調査計画を立案し、調査後は調査結果を報告書にまとめる。	水・5
田中 靖	D	河川地形・河相の観察	高知県四万十川流域	夏季休暇中と10月 中旬	河川地形・河相の観察をテーマとし、四万十川といくつかの河川について調査を行う。具体的には、数値標高モデル(DEM)による地形解析、現地における河川測量、ドローン空撮による礫径等の計測、流域の土地利用調査および水害危険性の評価に取り組む。調査技術として、GIS、ドローン測量、Pythonプログラミングによる数値計算、AIを援用した画像解析を学ぶ。	月・3
小野映介	F	北海道厚岸町における津波対策の現状と課題	北海道厚岸郡厚岸町	10月中旬 (3泊4日)	厚岸町は道東の日本海側に位置し、牡蠣・ホタテ・サンマ・サケ・カニ・牛乳・乳製品・しいたけなど、多彩な海産物・農産物に恵まれ、約1万人が居住している。当地域では、千島海溝沿いの巨大地震による大津波の発生が想定されていることから、ハザードマップの整備や避難訓練が行われている。そうした津波被害に対する備えの現状や課題について、行政や住民に対する聞き取り調査から検討する。	水・4

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。